

平成26年度第1回平地域審議会会議録

- 1 開催日時 平成26年5月30日(金)午前9時30分から11時40分まで
- 2 開催場所 南砺市平行政センター 第2会議室
- 3 出席委員 11名 山田勝芳 南田 実 図書健裕 永森常次 宮本佳子
池田 實 中島陽子 水口育子 折口律子 吹上 都
六十苺裕樹
- 4 欠席委員 2名 長田一政 高桑武彦
- 5 市側出席者 田中市長、高山総務部長、長澤市長政策室長
上口市民協働課長、鳥越税務課長、此尾秘書係長、平行政センター
長、平行政センター次長、石本市民協働課主査
- 5 傍聴者 0名
- 6 協議議題
 - ① 平成26年度南砺市予算について
 - ② 南砺市公共施設再編計画の変更について
 - ③ 集合納税方式から単税方式への変更について
 - ④ 空き家等の適正管理について
 - ⑤ 南砺市エコビレッジ構想桜ヶ池アクションプランについて

7 会議経過

○開会

事務局(センター長)から開会と本審議会の成立の宣言を行う。

○委嘱書の交付

市長より全委員に対し委嘱書を交付。

○会長・副会長の選任

六十苺センター長より、会議前に委員で互選し、会長に永森常次さん、副会長に宮本佳子さんを選任したことを報告。

○会長挨拶

○市長挨拶

○協議議題

永森会長が議長となり、順次議事を進める。

(議長) 議題1 平成26年度南砺市予算の概要について、議題2 南砺市公共施設再編計画の変更について、議題3 集合税方式から単税方式への変更についてを一括して説明を求める。
(高山総務部長より資料に基づき説明を行う。)

(議長) 議題1～3までの質疑を求める。

(委員) 公共施設再編計画について問う

8町村が合併したので、無駄な施設もあるであろうが、再編の後に心配な事

は無いのか。また、目玉的な新しい施設を建設する予定はあるのか。

(高山総務部長) フルセット主義の町村が合併したので、再編については旧 8 町村に在ったそれぞれの施設の確認を行い計画していきたい。民営化できるもの、指定管理でできるもの、とにかく民活を利用して維持していきたい。また、今後建物にはメンテナンスが必要となってくるので、今在るすべての建物について、何年後にどのようなメンテナンスが必要か計画を立てていく事としている。

小中学校については、平中学校 上平小学校は新築したが、他では校舎の補修やグラウンドの整備等を順次行っていく必要がある。保育園の整備によるものや、福祉的なものは新設計画には有るが、観光的なものの新設は無いであろうと思う。

平地域での今後新しいものとしては、デジタル化した防災行政無線基地の整備であり、今後も起債計画や総合計画の中で皆さんにお示ししながら進めていきたいと考えている。

(委 員) 下水道事業会計は、前年度予算に対して今年度予算がすべて減額になっているが、2 年前に下水道料金をアップしたから減になったのか。旧町部の下水道施設の修繕の関係なのか。

次に、保育料の第 3 子無料化については大変有難いという感想である。しかし、出来れば 2～3 年後に第 2 子の無料化も考えていただきたい。理由としては、南砺市は、婚活など頑張ってはいるが、なかなか人口が増えない。既婚者が子供を生み育てやすい制度を考えていただきたい。

次に、集合納税方式から単税方式への変更については、誰が一般住民の方へ周知するのか。

(高山総務部長) 下水道事業会計については、料金を上げたが人口減により使用料収入が減っている部分もあり、維持管理経費等の節約に努めている。また、起債の繰上げ償還を行い利息を減額する等、トータルした中で事業費が減っているということでご理解いただきたい。

単税方式の周知については、広報や区長会等で 28 年度までに了解いただけるよう説明していきたい。

(市 長) 第 2 子無料化について検討したいが、現在の子育て世帯のデータとして、結婚して一人目は普通に、二人目は配偶者、家族の協力のもと、三人目は経済的な問題となっている。そこで、今年度は第 3 子を育てる世帯の経済的負担を軽減するために無料化をした。これからも生み育てやすい環境を作っていくために第 2 子、第 1 子についても無料化の必要があるのか模索中である。

下水道事業については、施設設備を先行投資して、その後、維持管理やメンテナンスが必要となってくる。現在加入世帯は100%近くになっていて、今後減る一方であり、そのため2年前に苦渋の選択で料金を上げさせていただいた。また、下水道事業は企業会計であり法律上公的資金をあまり入れることが出来ないのので、料金を上げさせていただいたということもご理解いただきたい。

(委員) こども妊産婦医療費助成について、10月から通院医療費助成が中学3年生まで拡大したことは大変有難いが、南砺市以外で受診した場合は償還払い方式である。砺波市では、ピンクのカードや用紙を受付で提示しなくても受診できる仕組みと聞いているが、南砺市でもそのように出来ないか。簡単に無料受診が出来る仕組みを考えていただきたい。

(市長) 申請方式なので、忘れることもあると思うがご理解いただきたい。通院医療費の無料化は喜ばれるが、私自身としては、無料ではいけないと思っている。それぞれの首長の考えで、特に砺波市や高岡市は現在中学生も無料ではあるが、もう少し話し合いの中で決める必要があったと考えている。医療費は無料ではなく、保険や市の補助、個人負担金等トータルでどのくらいの医療費がかかるのかということを、大人になった時のために子供たちも知る必要があると思っている。

(委員) 年間を通して講演会が沢山あり、各課によって講演会が行われているが、講演会一回の予算はどれくらいか。聴衆は何人くらいか。

(市長) 教育委員会や福祉課など南砺市は富山県で一番講演会が多い。聴衆は講演会場に相応しいほどの人数は来ていただいている。最近エコビレッジ等の勉強会も多く行っている。

(委員) 公共施設再編については十分調査済みと思うが、その中で、譲渡物件を地元では受け取れないという場合は、どのような対応になるのか。必要のない物は置く必要はないが、無くなれば寂しい気持ちになる。希望としては、機能を変更して使い易くして譲渡するかたちにならないか。また、危ない施設は壊してその土地の有効利用、たとえば落雪モデルハウスの建設等を考えていただきたい。

先日の出前市長室でも意見のあった道のサインについて、かなり傷みの酷い物が在る。市長としては、あまりサインは付けたくないというご意見だったように思うので、この際、取り払って整理したほうが良いのではないかと。

(高山総務部長) 再編計画の中で譲渡としているのは、譲り渡すということです。ただ個々

の団体と話し合う中で、いらないということも出てくる。そうすると、譲渡から解体という結果になってしまう場合がある。できれば地元で受け取っていただけるのが一番良いと考えている。また、新たな公共施設の建設となると慎重に検討する必要がある

(市長) サインについてはご意見のとおりで、ゼロにするという事ではなくて最低限必要な物だけにしたいと考えている。サイン計画もあるので、その場所に応じたサインをきちんと考えていきたい。

(委員) 公共施設再編計画について、沢山の施設の名前が上がっているが、園芸植物園や児童館等の専門的な施設については、どのような選考方法、検討方法なのかを知りたい。

(高山総務部長) 園芸植物園については、菊等の育成や、市民の方への提供を行なっている。今現在も職員ではなく臨時の方たちをお願いしている。今後は、法人等が責任を持って取り組めるかたちで一元的な管理ができないか、行革・施設再編課、担当課と地元の関係者の方々と検討中である。

児童館についても、臨時職員の方々に時間単位で指導していただいている。児童館としてサービスアップすること、場所によって違うサービスを行なっている事等を児童館運営委員会と協議をさせていただき、来年度から指定管理へ移行する話を進めている。当然、子育て支援室、行革・施設再編課と地元の地域審議会と話し合いをし、その在り方としての仕様書を検討中である。また、井波、福野、城端、福光地域の4カ所が同じサービスになるような思いで一括指定管理できないか協議している。

(委員) もし引取手がない場合は

(高山総務部長) 事前に可能性のある方と個別に話をしながら進めており、引取手が無いということにならないよう努力しているところです。

(委員) 期間は何年間

(高山総務部長) 期間は3年間です。それぞれ児童館の古い地域、今から建設する地域があり、形態は違っているが基本的に3年ということで、形態が変われば仕様の見直しをしていくということで指定管理を続けて行きたいと考えています。

(委員) 広い目で見ても指定管理というものがよく解らない。企業は利潤を上げるものと思うが、どういう部分で利潤が上がるのか。

(高山総務部長) 指定管理は企業ばかりではなく、NPO法人とか任意団体など個人以外の団体をお願いする。経費などきちんとした精算を行い、その中で運営をし

ていただく。利潤を上げるというより、より合理的にサービスを上げていくというところに主眼を置いて管理していただきたいと思っている。企業が利潤を上げるというよりも、たくさんの施設を管理しているノウハウを生かして、より良いサービスをしていただく形になると思う。

(委員) 平では、昨年まで土木からクリーンアップ事業ということで1軒200円の補助があったが、今年は無いか。予算のあらましには載っていない。

(高山総務部長) 予算のあらましには掲載されていないが、昨年と同じで1軒200円の予算がある。

(委員) 看護師の学校へ行く場合は、何年か南砺市で働くと奨学金が免除されるが、医師の場合はそういう制度はないのか。

(市長) お考えは大変有難いのですが、医師の場合はもっと良い奨学金が沢山あります。南砺市の看護師の奨学金は南砺市で5年間勤めれば奨学金返済免除となっています。医師については、大学に入学した時に南砺市の医師になりたいという限定的なことではないと思うので、国や県の良い奨学金を受けてはどうか。富山県では、富山県の奨学金で富山大学へ10人くらい、自治医大へは何人か入学している。この条件は富山県へ帰って来るという条件であり、ただ南砺市へ帰ってきてほしいという条件はなかなか打ち出せないと思う。南砺市からは、毎年自治医大を3人受けていて、大変なメリットがあると考えている。

(委員) 沢山の施設が在るので、再編計画の仕事をどんどん進めていただきたい。ただ、(P146)南砺市は富山県の中でも優秀な公債費負担の状況、将来負担の状況も優秀であると書いてあるのに、再編計画はそんなに急いでやらなければならないのか。私は、南砺市住民に無理強いをしているのではないかと考える。再編はどんどん進めてほしいが、無理強いしてまで急ぐのは何故か。

(市長) 実質公債費率と事業をしていく中での起債のバランスは、富山県の中で一番良い。ただ市税がどんどん下がってきていて、南砺市の市税収入の率が非常に低く、今までのやり方では平成30年頃には歳入歳出が逆転して、何も出来ない危機になる。その為、今在るものを再編していきたいと考えている。サービスを上げて効率が良くなるような仕組みで、住民の皆さんへ説明し、相談しながら進めていきたいと考えている。

(高山総務部長) 多額の公債費が有るが大丈夫なのかという説明が(P146)であり、一方(P142)にあるように自主財源としての市税が20.3パーセントという状況であり、地方交付税は43.8パーセントを占める。この地方交付税

は、今後どんどん減っていく財源であり大変厳しい。将来的には再編を進めてスリム化をしていく必要があることを、ご理解いただきたい。

(委員) 今の説明で、大変ご苦勞されていることは解りましたが、5～6年前に氷見市と南砺市を比べた場合に、氷見市には活気があるということを新聞で読んだ。その時に市長は「南砺市は健全な財政で」と言われたように思うが、先ほどからの説明ではちぐはぐではないか。

ここでお願いしたいのは、小学校を解体してでも、この地域が発展するような気持ちになるようにしてほしいという事。たとえば、グラウンドを残すこと、現在有る建物（文化複合施設）を改修し、使い勝手の良いものにする等、また、各種の会合等を行なう時には なんバス利用を勧めていきたいと考えているので、使い勝手の良いバス時刻にしていきたい。

(高山総務部長) 地域が元気になるよという話でしたが、小学校取り壊し後の跡地利用についての検討費用は6月補正で予算計上しております。今後、地域の方々にも検討していただきたい。

(市長) なんバスについては、出前市長室でも使い勝手の良い時刻、曜日を決めて運行する等のご意見が有りましたので検討したい。

地域の元気が無くなることと、物が無くなることとはあまり関係が無いと思う。地域内で課題がある物を、地域内の方達で解決をして行く地域力を大事にするために、地域づくり交付金を増額している。この地域が、この交付金をいかにうまく利活用して、地域力を高めるかがまちづくりだと思う。モデル事業や公募型の補助事業も増やしているので、知恵を出していただき、頑張りましょうという気運を高め活発な地域にしていきたい。

(議長) 議題4 空き家等の適正管理について、議題5 南砺市エコビレッジ構想桜ヶ池アクションプランについて、を一括して説明を求める。
(長澤市長政策室長より資料に基づき説明を行う。)

(議長) 議題4・5の質疑を求める。

(委員) 夏休みの宿題として『我が家のエコ活動』の作文を募集したらどうか。

(市長) 日本の最先端の技術を駆使して大きな企業で働いた方が、今からのエコについて書かれた絵本があり、これを小中学校に置いて読んでもらい、子供の中にエコの発想が生まれ、それを作文に書いてみるのも良いことと思う。

(長澤市長政策室長) 福野高校と一緒にエコビレッジプランをしていて、今年は福野庁舎の三階までグリーンカーテンをはわせる計画をしている。

(議長) 再度質疑を募る。

(委員) 全委員質疑なし。

(議長) 当初お示した時間もまいりましたので、これで質疑を終了したいと思います。

○副会長挨拶

○閉会

事務局（センター長）から閉会の宣言をする。